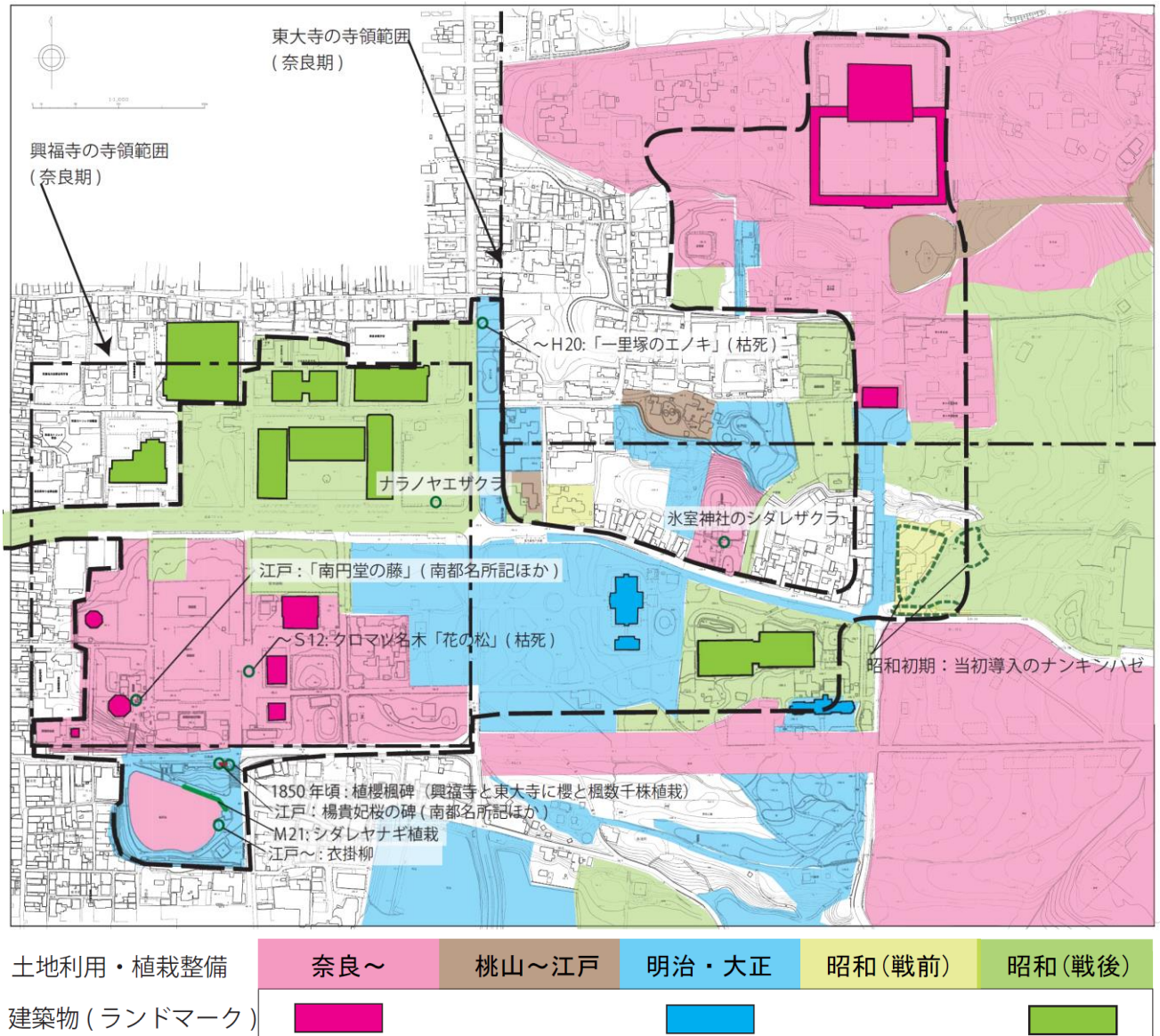


特性4 クロマツ疎林ゾーンは、土地利用や植栽整備の歴史が植栽や景観に色濃く反映されている。

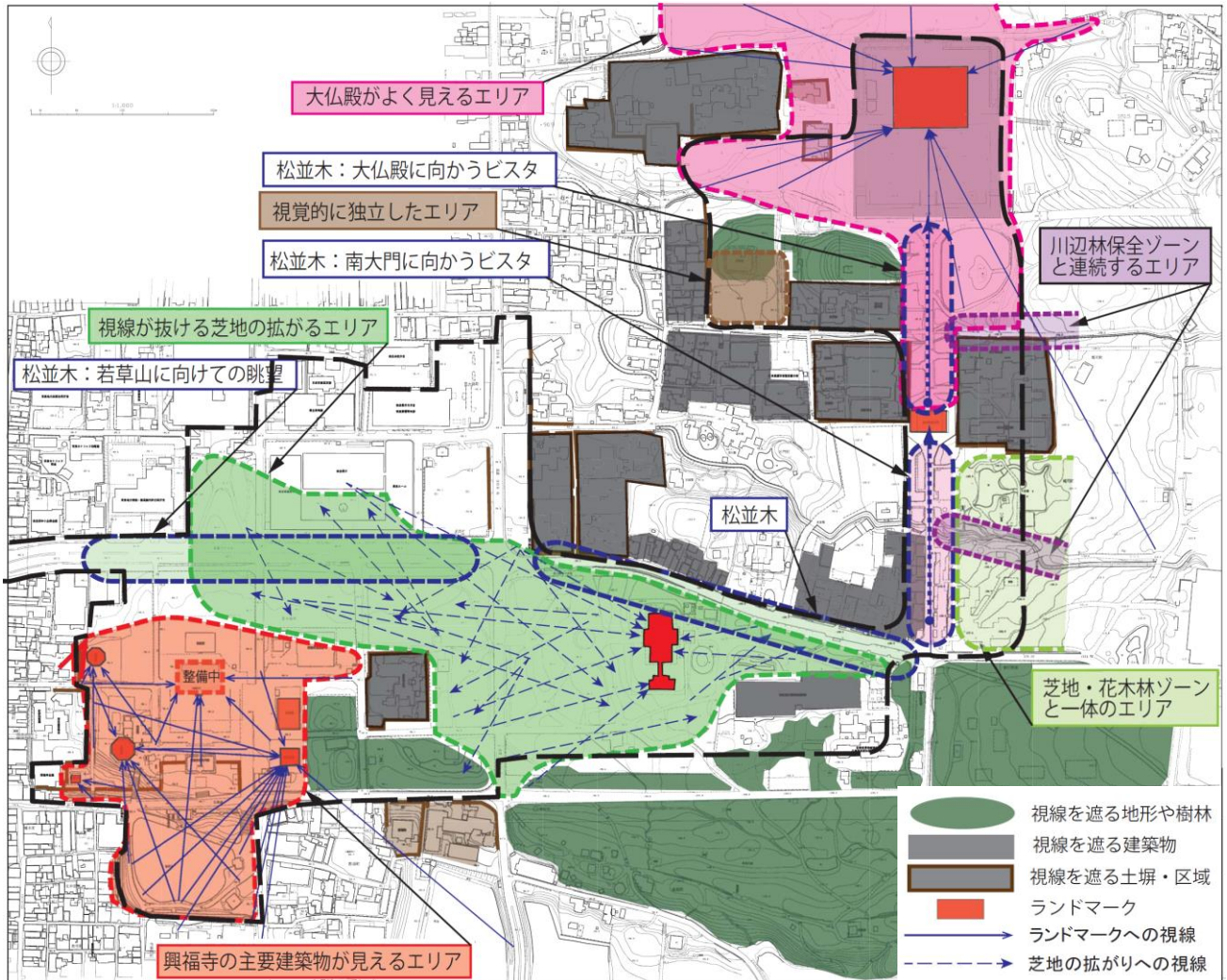
○土地利用、植栽、建築物の時代性は、興福寺と東大寺に関連する奈良時代から続くエリアと、都市公園や博物館等に関連する明治以降のエリアに大別される。



※時代区分は、建立・整備年代の他に様式・形式の時代性を参考に行った。 ○ 名木・いわれのある樹木

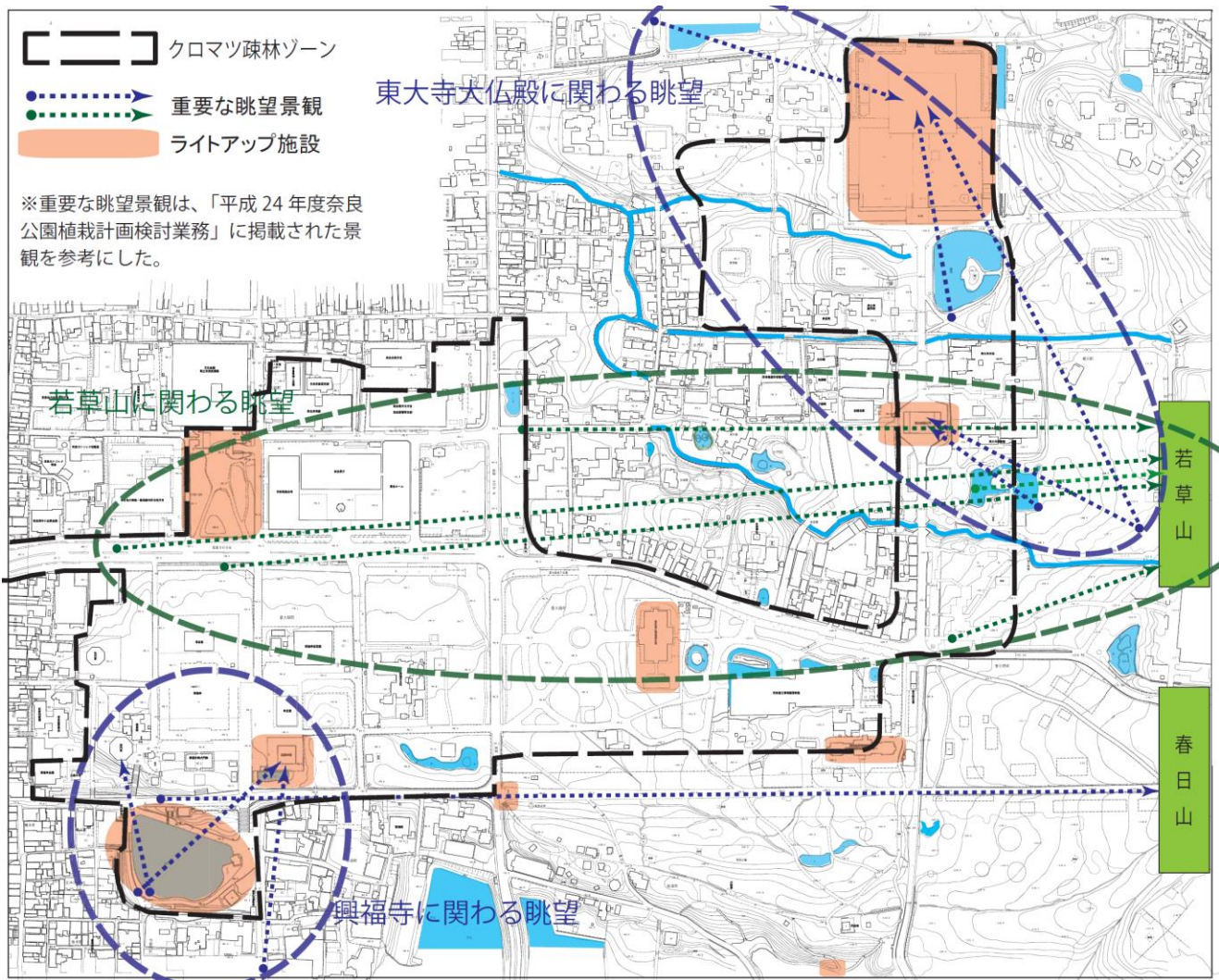
図：土地利用・植栽整備・建築(ランドマーク)の時代区分

○景観特性からみると、興福寺と東大寺（大仏殿）の境内景観のエリアと都市公園や博物館構内等の開放的な景観のエリアに大別される。



図：ランドマークや景観特性によるエリア区分

- ・興福寺と東大寺（大仏殿）の境内は、建築物や土塀、地形変化等によって視線が制限されており、ランドマークとなる歴史的建築物に視線が集まる。境内には芝地はあるものの限定的で、敷地外に視線が抜ける箇所は少ない。
- ・都市公園と博物館構内は、一部に建築物があるものの、密度の高い松林と芝地の拡がり連続しており、周囲に視線が抜ける。

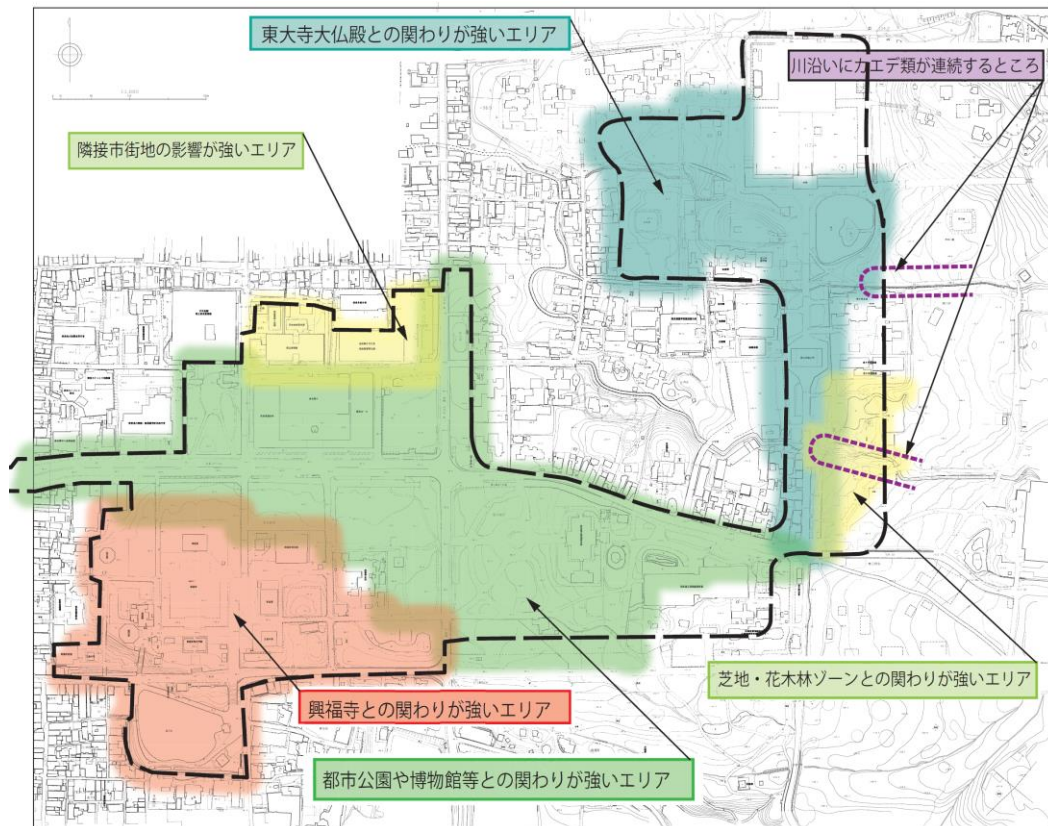


図：重要な眺望

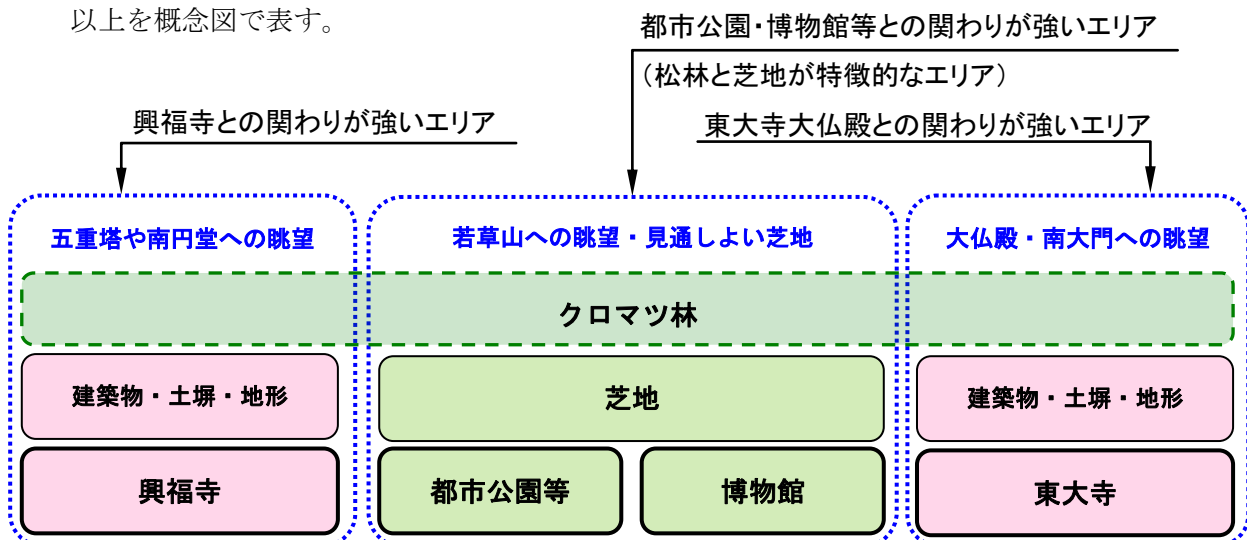
- ・重要な眺望は、興福寺に関する眺望、東大寺大仏殿に関する眺望、若草山に関する眺望に大別することができる。
- ・興福寺と東大寺の境内及び隣接地に位置する眺望点のアイストップはランドマークとなる歴史的建築物であり、これらの眺望点の前面には池水面(芝地ではない)があり、これによって眺望が担保されている。
- ・都市公園内や隣接道路に位置する眺望点のアイストップは若草山であり、これらの眺望点の前面には芝地又は道路面があり、これにより眺望が担保されている。

特性のまとめ

- クロマツ疎林ゾーンは、「興福寺との関わりが強いエリア」「東大寺大仏殿との関わりが強いエリア」「都市公園・博物館等との関わりが強いエリア」のエリアに大別される。
- 「興福寺との関わりが強いエリア」「東大寺大仏殿との関わりが強いエリア」は、奈良時代から続く歴史的建築物や境内地としての土地利用があり、植栽や景観もそれが核となっている。
- 「都市公園・博物館等との関わりが強いエリア」は、明治以降に土地利用・植栽整備されたものであり、「見通しの良い松林と芝地」が特徴となっている。
- いずれのエリアも、古くからマツが見られ現在もクロマツが全体を覆い、それが景観の特徴となっている。

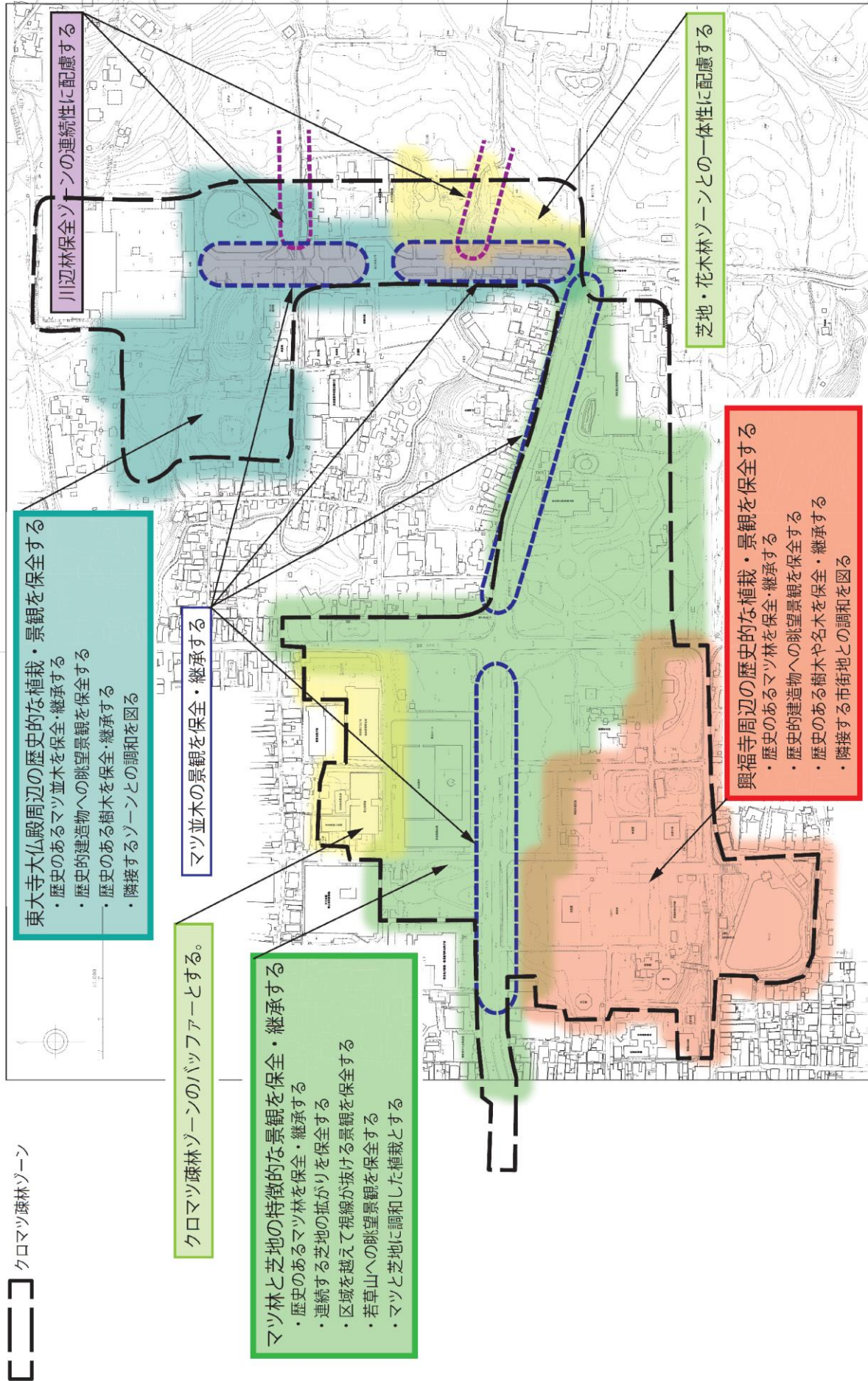


以上を概念図で表す。



図：空間構成の概念

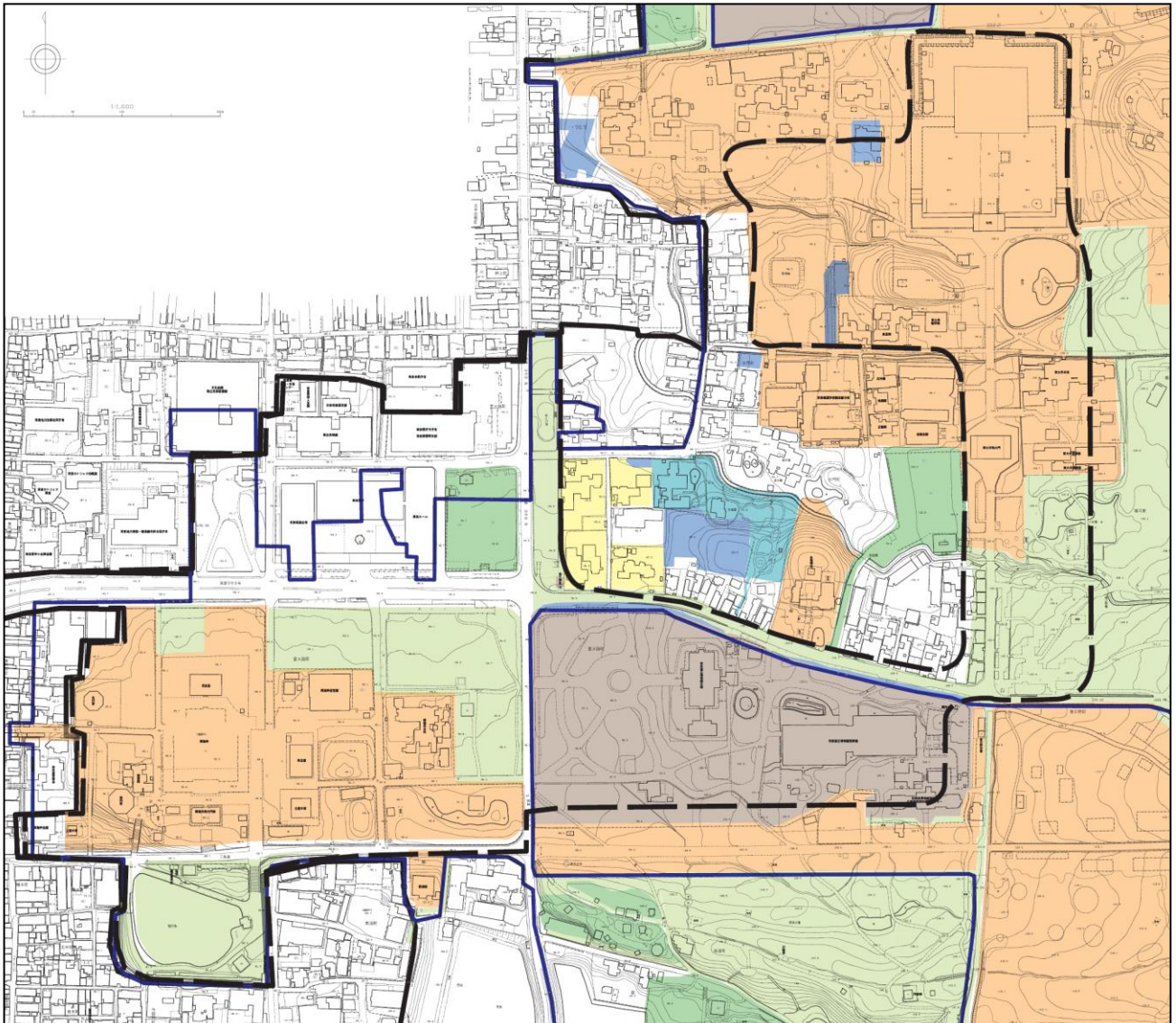
4. ゾーンの計画方針(案)




ゾーン全体の計画方針(案)：クロマツ疎林を基調として歴史文化と調和した品格ある植栽・景観を保全・継承する。









5. 植栽区の設定(案)

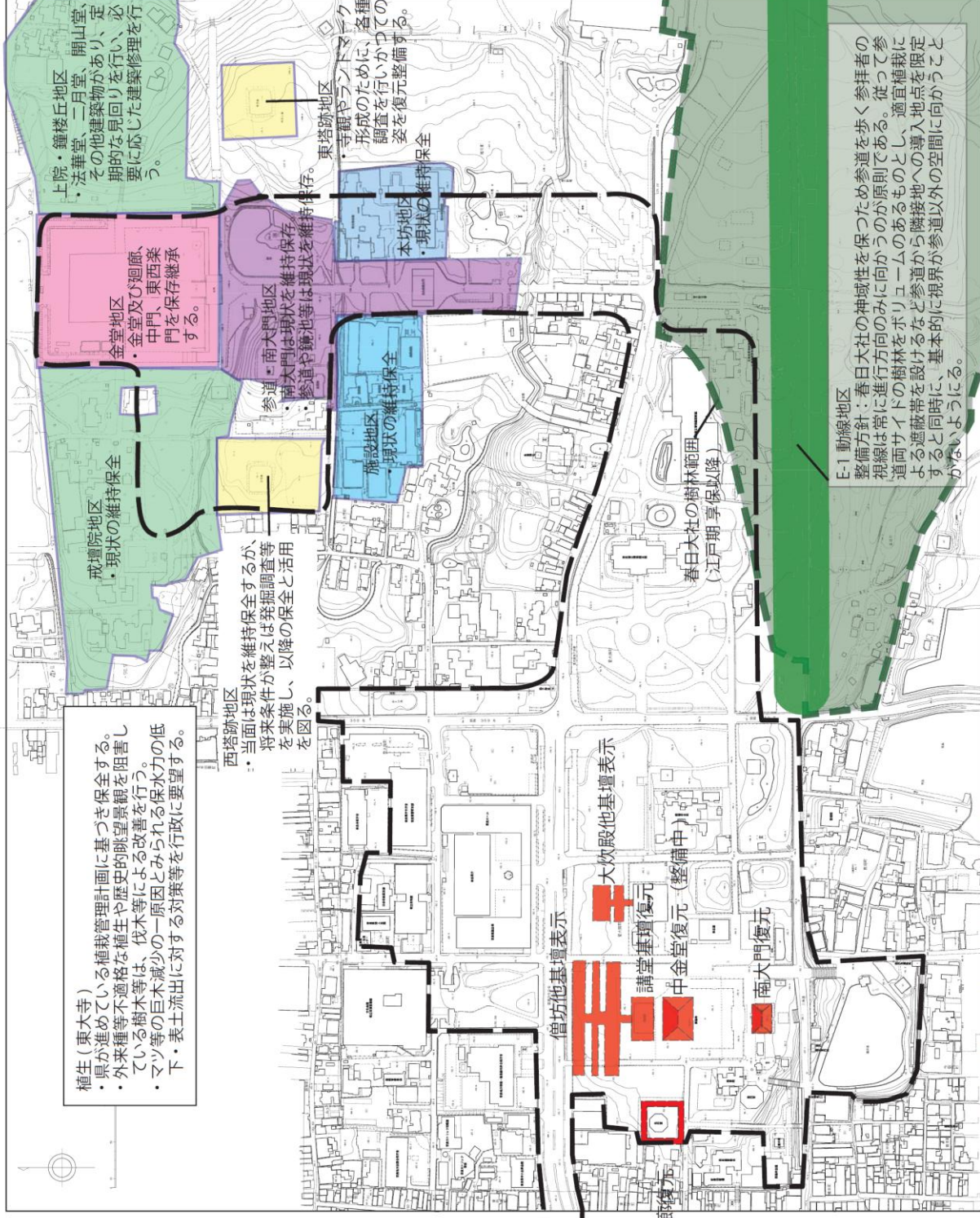
前項で設定した計画方針(案)に従い計画目標を検討するため、計画単位となる植栽区を設定する。植栽区は、計画検討において一つのまとまりある空間として捉えるべきエリアであることから、計画方針(案)で示したエリアを基本にして、土地所有、都市公園や名勝奈良公園の区域、上位計画や関連計画等を参考に設定を行う。



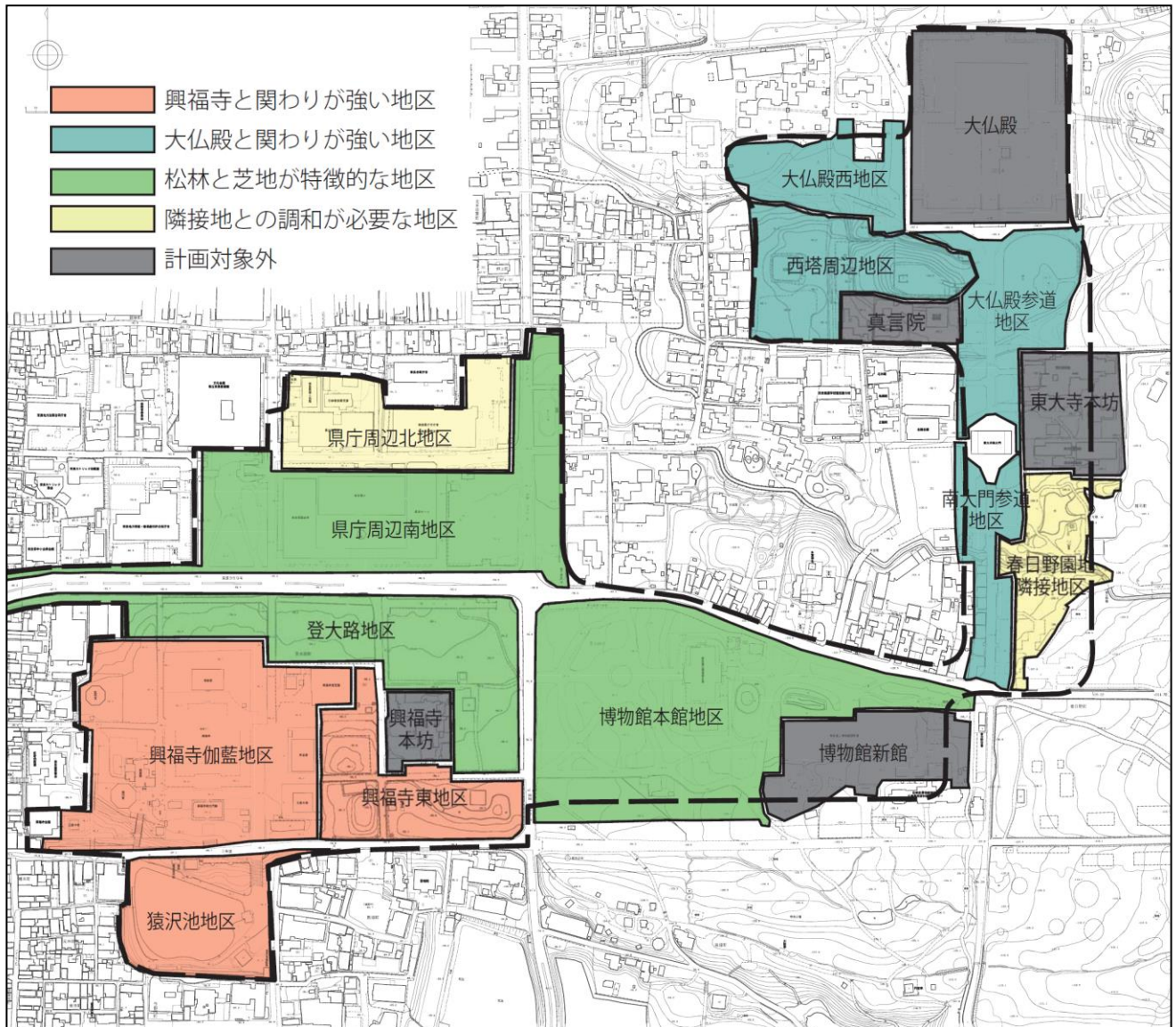
 名勝奈良公園 指定区域

図：土地所有区分

凡 例		
奈良公園	県有地	
	国有地	
吉城園 (県有地)		
古都保存買収地 (吉城園除く)		
その他の県有地		
博物館・正倉院 (国有地)		
社寺地		
その他		



引用資料：興福寺境内整備構想 平成 10 年 2 月 10 日
春日大社境内整備委員会 協議用資料
東大寺境内整備計画委員会 協議用資料



図：植栽区(案)